
第 98 回関西スペイン語教授法ワークショップ(TADESKA) 開催の報告

XCVIII Reunión del Taller de Didáctica de Español de Kansai

日時：2016年5月7日（土） 10:30 - 12:30

場所：関西学院大学梅田キャンパス(ハブスクエア) 1004 教室

担当者：小川雅美

「講読：La nueva gramática básica de la lengua española 第2部『語』 2b 語類・語種 第10章『人称代名詞』 pp.97-107」

* Fecha y hora: sábado, 7 de mayo de 2016, de 10:30 a 12:30

* Lugar: Universidad Kwansei Gakuin, Campus de Umeda "K.G. Hub Square", Aula 1004

* Encargada: Masami Ogawa

* Lectura de la “Nueva gramática básica de la lengua española: Capítulo 10 “El pronombre personal””

5月7日に行った講読のレジюмеである。最後に担当者によるコメントを、レジюме内の[数字]の番号順に、この文章の最後にまとめて掲載している。

II. Las palabras (語)

IIb. Morfología (品詞と語類)

10. El pronombre personal (「人称代名詞」)

Paradigma de unidades y características (単体[としての語]の範列と特徴) (p.97)

PARADIGMA (範列)

➤ 人称代名詞単体の体系（再帰形と相互形を除く）

(p.97 の表参照)

1 初級文法で表をもっと単純化できるのでは？

➤ 2 人称には敬称の usted も用いられるが、動詞と代名詞には 3 人称で一致

ustedes ← vosotros/as (アンダルシアとカナリア諸島、アメリカ諸国全体)

conmigo, contigo: 前置詞と代名詞の融合形 (1 語に統合された前置詞句)

CARACTERIZACIÓN (特徴)

➤ 人称代名詞：談話の参与者（一般に、話中で言及される人、動物、もの）を指示

人称屈折、性、数、格、再帰性という文法的特徴

発話行為の度に指示対象が変わりうるが、一定で一義的な意味(significado)を持つ

Valores gramaticales de los pronombres personales (人称代名詞の文法的価値) (p.98)

PERSONA (人称) (p.98)

Referencia y concordancia (指示と一致)

➤ 2つの価値 (解釈)

2 初級文法でもっと明確化すべきでは？

a) 談話における人称 (発話行為への参与者、非参与者)

b) 文法的人称 (動詞との一致)

➤ a) と b) は一致 (例外: usted, ustedes...a) 2 人称、b) 3 人称)

(pp.98-99 の表参照)

NÚMERO (数) (P.99)

Referencia y concordancia (指示と一致)

> 2つの価値

- a) 単数か複数の印 (指示対象の数)
- b) 動詞、形容詞との一致 (形態)

Plurales y singulares especiales (特別な複数形と単数形)

> 1 人称複数形[1 複形]が単数の人物を指す

- a) 威厳の複数 (→ 談話 1 単) b) 謙遜・著者の複数 (断言緩和: → 談話 1 単)
- c) 社交の複数 (親しみ: → 談話 2 単[?]) *¿Qué tal estamos, amigo?* [Manual p.304 によると相手は 1 人=2 単]

3 上の例文に人称代名詞がない。

> 総称 (「人は誰でも」「一般的に人は」)

→ 1 複形 / 2 単形 (= 1 複形、"uno"+3 単形)

GÉNERO (性)

> 男女の区別のあるもの (nosotros/nosotras, lo/la, él/ella/ello (← 中性), etc.)

> 男女の区別のないもの (yo, usted, te, les, conmigo, etc.)

ただし、代名詞と組む形容詞が指示対象の自然の性を示す場合もある

CASO (格)

> 格: 形が統語機能に関連する屈折の表現[形式] (ラテン語の格はスペイン語では人称代名詞にのみ維持)

4 初級文法における用語「格」は語形と機能を混同?

> 4つの格

5 強勢の有無の分類の方がわかりやすい (= **1**)

| 強勢の有無 | 格の種類 | 主な機能 | 他の用法 | 注 |
|-------|-------------|----------------------------|------------------------------------|------------------------------|
| 強勢形 | 直格 (= 主格) | 主語、属詞 | 動詞不在の文 ・分裂構造の片方 ・写真のキャプションなど | 前置詞 <i>entre</i> の後にも |
| | 斜格 (= 前置詞格) | 多様 (直接補語、間接補語、被制辞補語、状況補語等) | | 常に前置詞に後続 (<i>entre</i> を除く) |
| 無強勢形 | 対格 | 直接補語 | | |
| | 与格 | 間接補語 | | |

6 「被制辞補語」という訳語について (文全体における機能)

Pronombres reflexivos y recíprocos (再帰代名詞と相互代名詞) (p.101)

REFLEXIVOS. DEFINICIÓN Y RASGOS (再帰代名詞: 定義と特徴)

> 再帰代名詞: 通常主語となる名詞句と同じ指示対象を持つ人称代名詞

> 2つの範列

| 強勢の有無 | 統語機能 | [統語条件] | 例 | 対応する非再帰形 |
|-------|-------------------------|---------|------------------------|--------------------|
| 無強勢形 | 直接補語、間接補語 | | me, te, se | yo |
| 強勢形 | 多様な機能 (被制辞補語、状況補語、名詞修飾) | 前置詞の被制辞 | mí, conmigo, ti, sí | tú usted, él... |

(p. 101 の表参照)

REFLEXIVOS INHERENTES Y CONTEXTUALES (本来の再帰代名詞と文脈的再帰代名詞)

> 固有の再帰代名詞...sí, consigo

7 “inherente”の意味

文脈次第で再帰...その他

再帰の解釈を助ける mismo (Está muy contento con él mismo. =Está muy contento consigo mismo.)

- > 代名動詞(quejarse, preocuparse...)中の代名詞は、[主語と同一指示をするため]再帰代名詞に近いが、統語機能を果たさない

8 初級文法における「再帰動詞」の説明の問題

RECÍPROCOS (相互代名詞)

- > 相互：行為・過程・状態が同じ参加者らに働く (独自の形式がないため再帰代名詞複数形で代用)

9 定義不明瞭、例文 se 抜けている

- > 無強勢形: 直接・間接補語として機能。先行詞は複数あるいは単数(単数の場合は集合的意味 **例** la familia)

- > 強勢形：2 グループ

a) entre+複数を示す代名詞

b) (el) uno +前置詞+(el) otro (厳密には人称代名詞ではないが)

Colocación de los pronombres átonos (無強勢代名詞の共起) (p.103)

PROCLÍTICOS Y ENCLÍTICOS (前接と後接)

- > 無強勢代名詞は「接辞代名詞」と呼ばれる (←音韻的に動詞に支えられる)

| 種類 | 書記方法 | 動詞の形態 (現代語) | 例 |
|----|-----------|----------------------------|---------------------------------------|
| 前接 | 動詞と分けて書く | 下記以外 | comprarlo, comprándolo, compradlo |
| 後接 | 動詞につなげて書く | 不定詞、現在分詞、肯定命令 (接続法現在形の場合も) | Lo compró, Se fue; No se lo digas. |

GRUPOS PRONOMINALES ÁTONOS (無強勢代名詞のまとめ)

- > まとまりで動詞に前置もしくは後置される。

まとまり内の語順の条件条件 (優先順位の高い順)

a) se は常に先行

b) 2 人称 > 1 人称 > 3 人称

c) 与格 > 対格

d) 再帰代名詞 (代名動詞の場合も) が先行

CLÍTICOS EN PERÍFRASIS Y OTRAS CONSTRUCCIONES VERBALES (迂言形式および他の動詞構造における接辞)

- > 不定詞と現在分詞に付属する代名詞は助動詞の前に置くことができる。助動詞の数が増えれば代名詞の場所の可能性も増える。

- > 助動詞に限らず、「動詞+不定詞」の構造では、前置も後置も可能。(ただし Creí tenerlo arregladoの方が Lo creí tener arregladoより自然)。

★

| | 前置[前接] | 後置[後接] |
|-------|--|---|
| 再帰受動文 | ○ Se deben tener en cuenta todos los hechos. | ○ Deben tenerse en cuenta todos los hechos. |
| 無人称文 | ○ No se puede fumar en esta sección. | ? No puede fumarse en esta sección. (無理があるので避けるべき) |

PRONOMBRES ÁTONOS EN LA DUPLICACIÓN DE COMPLEMENTOS (補語の重複における無強勢代名詞)

- 無強勢代名詞とそれに対応する強勢形 (名詞・代名詞) の共起：重複
- 強勢代名詞が直接または間接補語→無強勢代名詞の重複が必要 (Me traje a mí. / *Trajo a mí.)

➤ 「a+名詞句」が動詞に後置される時

- ・ 間接補語の場合：しばしば[無強勢代名詞が]重複
- ・ 直接補語の場合：無強勢代名詞の使用はまれ (ラプラタ地域を除く)。

強調の度合いによってはメキシコ、中米の一部、プエルトリコ、ペルー、スペインの口語に存在

➤ 直接補語、間接補語が動詞に前置する時、無強勢代名詞の重複が現れる。ただし、動詞に前置される保護が焦点化されている場合には、無強勢代名詞はなし。

Eso lo dijo el gobernador. (『Eso』はテーマ化)

Eso dijo el gobernador. (『Eso』は焦点化)

Leísmo, laísmo y loísmo (レイスモ、ライスモ、ロイスモ) (p.105)

EL LEÍSMO (レイスモ)

➤ レイスモ：対格の代わりに与格の無強勢代名詞を用いること

| | 指示対象 | 分布 | ★誤用かどうか |
|----|-------|--|----------------------------|
| a) | 男性の人物 | 古いスペイン語でも現代語でも最も広く見られる スペインの方が多いが時々アメリカにも見られる | 誤用とはみなされないが、 複数形では避けるべき |
| b) | 女性の人物 | あまり見られない | prestigio に欠ける。誤用 |
| c) | 物 | | 誤用 |

10 prestigio の日本語訳？「社会的評価？」

EL LAÍSMO Y EL LOÍSMO (ライスモとロイスモ)

| 名称 | 定義 | 指示対象 | 分布 | ★誤用かどうか |
|------|----------------------------------|------------------|-------------------|------------|
| ライスモ | 与格の代わりに対格女性形 (la, las) を使用すること | 人、物 (物を指すことは少ない) | スペインのいくつかの地域 | いかなる状況でも誤用 |
| ロイスモ | 人や物を指す与格の代わりに対格 (lo, los) を用いること | 人、物 | カスティーリャのいくつかの地域のみ | いかなる状況でも誤用 |

Las formas de tratamiento pronominal (代名詞の待遇表現)

FORMAS DE TRATAMIENTO (待遇表現)

➤ 待遇表現：発話者が社会的関係に従って聞き手を指す時に用いる形式

社会、場面、地理的状況が関与

TÚ Y USTED

| 待遇表現の基本タイプ | 形式 | 通時的特徴 | 地域差 |
|------------|---------|-----------------------------------|--|
| 信頼・親しみ | tú, vos | 現代スペイン語で顕著に発達 (近さ、平等の印) | <ul style="list-style-type: none"> ・スペインでトゥテオ(tú の使用)が優勢 ・tú と vos が共存しない地域では、家族、仲間、同僚の間でトゥテオが普通。 ・アメリカのいくつかのボセオ地域では、vos (最大の信頼) <tú (中間) <usted (敬意を表す) の3段階 |
| 敬意 | usted | 最近までは、病院スタッフと患者、教師と生徒の間で広く使用されていた | |

EL VOSEO (「ボセオ」=vos の使用)

➤ボセオ：1人の聞き手を vos で指示し、動詞の屈折において専用の語形を持つもの

(現在は廃れた敬称の vos とは異なる。敬称の vos : "una carta vuestra"⇔親称の vos "una carta tuya")

➤動詞との一致：3つのタイプ

| 屈折の有無 | 活用の仕方 | タイプ | 代名詞 | [代名詞と動詞の共起] | |
|----------|------------|----------|---------|----------------------------------|-------|
| 屈折のあるボセオ | 通常古い複数形の活用 | 1. 代名詞 | vos の使用 | vos tenéis, vos tenés, vos tenís | |
| | | 2. 非代名詞的 | tú の使用 | tú tenés, tú tenís | |
| 屈折のないボセオ | tú の活用 | 3. 代名詞的 | vos の使用 | vos tienes | 最も珍しい |

➤アメリカ諸国全般(アンティール諸島を除く)に分布。メキシコでは少なく、他の地域も分布の仕方や用法が異なる。

➤ボセオの社会言語学的状況は複雑で不安定。アルゼンチン、パラグアイ、ウルグアイ、コスタリカ、ニカラグア、チリ、ボリビア、そしてコロンビアとベネズエラとエクアドルの一部では信頼の待遇表現として一般的(社会的評価は地域によって異なる)。

それ以外の地域では使用が限定。エルサルバドルでは家庭内、パナマではもっぱら田舎の言葉であり社会的評価が低い。

コメント

1 初級文法で表をもっと単純化できるのでは？

人称代名詞の一覧表は、初級文法の教科書や参考書にしばしば掲載されているが、左から順に「主格」「間接目的格」「直接目的格」「前置詞格」(目的格は直接と間接が交替しうる)となっていることが多い。しかし、同じ語形がいくつも重複するため、表が煩雑である。例えば次のような表であれば、学習負担が感じられにくいのではないだろうか。(ワークショップでは表全体を提示できなかったのここに記す。)

| 音の強さ | | 強 | | 弱(前後の動詞を強く) | | 対応する 動詞人称形 |
|--------|---------------|---------------------|-------|-------------------------|-----------|---------------|
| 組み合わせ | | ★ | 前置詞+★ | ★+動詞人称形 動詞(不・現分・肯命)★ | | |
| 文中の要素 | | 主語 | 主語以外 | 間接目的語 | 直接目的語 | |
| 単 | 1(話者) | yo | mí | me | | 1単 |
| | 2(相手) | tú | tí | te | | 2単 |
| | | usted | | le | lo / la | 3単 |
| 3(その他) | él / ella | | se | | | |
| 複 | 1(話者) | nosotros / nosotras | | nos | | 1複 |
| | 2(相手) | vosotros / vosotras | | os | | 2複 |
| | | ustedes | | les | los / las | 3複 |
| 3(その他) | ellos / ellas | | se | | | |

★は人称代名詞を表す。

2 初級文法でもっと明確化すべきでは？

「人称」の概念が『新文法』の説明のように二義的であることを明示している教科書はほとんどないように思われる。多くの初学者は、英文法学習からの類推で「相手=2人称」と思う一方で、スペイン語の授業で「usted は3人称です」という説明を受けるかもしれない。また、「usted は何人称ですか？」と教師から尋ねられると、どちらの意味かわからず戸惑い、授業中の発話が消極的になるかもしれない。教科書では通常「tú=君」「usted=あなた」と訳し分けているが、このような訳語の関連付けも含め、初学者が混乱しないような丁寧な説明や指導が必要であろう。

3 上の例文に人称代名詞がない。

当該の文は次の通り。¿Qué tal estamos, amigo?(p.99)。ここでの担当者の疑問は、今回のテーマが「人称代名詞」であるにも関わらず、例文には nosotros がいないこと、また、”para referirse al oyente”と聞き手を単数形で扱っていることであつた。当該箇所を、Nueva Gramática Manual 調べたところ、「相手は1人」(p.304)と書かれていた。

ワークショップにはネイティブが2名(アルゼンチン人とスペイン人)がいたので尋ねたところ、次の回答が得られた。

- ・この表現は自分たちは使用しないが、男性が親しい相手に使用することがある。
- ・この表現に nosotros を入れるのはおかしい。#¿Qué tal estamos nosotros?
- ・相手が2人以上でもOK。

実のところ、この些細な問題には、文法に対する基本的な考え方が潜んでいるように思われる。ワークショップでは、人称代名詞が共起しないのに第10節「人称代名詞」にこの事項が掲載されていることについては、文中に非明示的になっているだけで、1人称複数形を指していることには変わらないので違和感はないという意見が出た。この意見は多くの教員や研究者にとって納得のいくものであるだろうし、担当者自身にとっても説得力はある。しかしながら、文法における品詞は、概念ではなく実体としての言語形式に発しているものであり、実体不在で概念のみのものを扱うのであれば、「人称代名詞」よりも上位の問題であるとして、『新文法基礎』の第2章「性」、第3章の「数」と同様、概念と言語形式との対応を「人称」という項目から示す方が理にかなっていると思われる。

4 初級文法における用語「格」は語形と機能を混同？

昔のスペイン語文法の本では、「対格・与格」とされていたが、近年では(担当者の著作も含め)「直接目的格・間接目的格」と記載されていることが多い。1つには、対格形は直接目的語、与格形はおおむね間接目的語として文中に現れるからである。もう1つの理由は、初学者として我々が想定しているのは、英文法の既習者であり、英語の学校文法で「目的格」という言葉を習っているからである。教科書の場合はこうした利便性が優先されるのだろうが、実のところ、直接目的、そして特に間接目的については、その定義として最も明確なのが、それぞれ lo (など) と le, les に置き換えられることであるが、それは互いが互いを定義づけるトートロジーに他ならない。また、『新文法』に明記されているように、「前置詞格」が前置詞を伴うことで直接目的語、間接目的語としても用いられる。「直接目的格」「間接目的格」を習った後に「前置詞格」という言葉が出てきて、違和感を持ったのは担当者だけではあるまい。「直接」「間接」と「前置詞」は全く別のカテゴリーだからだ。かといって、動詞との意味的関連から定義づけるのは困難である。日本語の「を」と「に」にあてはめることも、ある程度納得できるし有効ではあるが、あちこちでほころびが出てくる。「対格・与格」という名称を、lo と le という形を示すラベルとしておくことで、「格」とは形であつて機能は「直接目的語(あるいは『新文法』にあるように「直接補語」)」としておくのがよいかもしれない。文法用語の問題は、従来から使われている日本語訳の問題(「～語」「～詞」などの用語の多義性)もあり、学術・教育の言葉も決して慣習からくる制約を免れることができない。

(授業実践においては、用語の意味に拘りすぎず用例をたくさん使用することで直感的に区別できるようにすることが重要であり、授業を離れた教師の研修としては、矛盾を最小化しつつ体系的に文法を教えられる力を養うことが重要なのだろう。)

『新文法』を全体を読み進むうちに明確になってくるのは、従来の文法で用いられる用語、特に日本語での用語が、カテゴリーについて多義的であり、文法を体系的に教えることが学校の語学教育の柱であるならば(担当者はそれでもいいと思う)、用語の選定や使用に際して、文法のさまざまなカテゴリーに敏感になるべきではないだろうか。(漫然と教ええられた用語を教えるだけであれば、文法用語は学習者を混乱させることになる。)

5 強勢の有無の分類の方がわかりやすい(=1)

人称代名詞の形式に関わる最も明確な2分法は、「強勢語」か「無強勢語」かである。初学者が対象であっても文法を体系的に提示することには利点がある。それは、知識が整理され、使いやすく、覚えやすくなるからである。「文法」は、伝統的には書き言葉(それが反映されるつづり)、そして音にも価値が置かれるようになると音韻に根拠が置かれてきた。

一方、強勢語と無強勢語の区別は、付随的に説明されることはあっても、あまり本質的なものとして捉えてこられなかったのではないだろうか？しかしながら、私たちは、強勢語と無強勢語が、社会言語的な差異の少ない（ゼロとはいえないまでも）、大変安定した言語的特徴であることに留意したほうがよいのではないだろうか。強勢語はそれ自体に意味を持ち、文脈や状況に従って、発話機能も十分持ちうる。（ワークショップの2つ目のテーマとして柿原さんが取り上げた「交通」についての質疑応答で、動詞よりも前置詞の方がむしろ必須であるという指摘ともつながる。）「主格(nominativo)」は、指示対象をのものを指すもっとも標準的な人称代名詞である。ほとんどの場合は、発話と共に用いられるし、ある行為を表現する発話では、主語としてその行為主体を示す場合が多い。文中ではそれ以外の一方、「前置詞格(preposicional)」は、主語以外の全ての機能を持ちうる。

強勢語のみを用いて、次のような簡単な口頭練習が授業中にできる。

練習1

1) 生徒Aが”Yo, a ti”（私が君に）と言って（”,”のところでポーズを置くこと）、手元の何か（ボールペンや辞書など）を生徒Bに渡す。

2) 生徒Bが”Tú, a mí”（君が私に）と言って（同様にポーズを置くこと）、渡された物を受け取る。

3) 生徒Bがその物を生徒Aに返す。その際、役割を交替して1)、2)を行う。

一方、無強勢語の人称代名詞は例外なく動詞に付随する（昨年度から担当者は学生に「これらは動詞のお供」と説明している）。つまり、機能においても、強勢語とは全く異なる。上記と対になるような口頭練習も可能である。

練習2

1) 生徒Aが”Te doy ...”（私が君に与える）と言って、”...”のところで何か物を渡す。

2) 生徒Bが”Me das ...”（君が私に与える）と言って、”...”のところで渡された物を示す。

ここでは、間接目的語としての与格 *me, te* が動詞に付随して用いられる。その一方、主語は、動詞の人称形に反映されており、無強勢の代名詞は存在しない（人称形に反映されているため不要）。以上の2つの練習は、文法を知るための文法の練習であるが、ポーズや物の受け渡しや指し示しという言語外のアクションが組み込まれて、言語的には非明示の部分を補っていることに注意されたい。そして、いずれの練習も物の受け渡しという行為を示す言語表現という意味では同じであるが、練習1の焦点は代名詞、練習2の焦点は動詞となる。（プリタスクとしていかがでしょうか？）

スペイン語の人称代名詞の語形の最大の区分は、強勢語か無強勢語かという違いであり、まずそこを大分類することで、1)に示したような簡潔な人称代名詞の表も作ることができる。

6 「被制辞補語」という訳語について（文全体における機能）

伝統文法や教育用初級文法ではあまり注目されてこなかったが、『新文法』には、近年定着している「項補語」の概念が、「状況補語」と区別されている。”régimen”（被制辞）という概念がある。ある語を使用する場合には必然的に別の語が必要になる場合、後者の語は前者の語に「支配」されており、「被制辞」となる。例えば、動詞”carecer”（不足している）は、前置詞 *de* を要求し、前置詞を要求するということは、その前置詞が要求する名詞句も使用するということである（”Pedro carece de experiencia.”）。この場合の”de experiencia”は、直接目的語でも間接目的語でもないし、着脱可能な状況補語でもない。が、動詞に対して補語(complemento)としての機能を果たしている。そこで、今回「被制辞補語」という名称をつけた。

7 “inherente”の意味

今回、ワークショップでは”inherente”の訳語として「本来的」を採用した。が、今、辞書を見ながら再考すると「固有の」と訳すほうがよいと判断した。よって、この資料では訳語を訂正している。この文脈での意味は、*sí, consigo* は、代名詞としては（肯定の副詞や間投詞の *sí* ではない）形を見ただけで再帰形であると判断できるということである。

8 初級文法における「再帰動詞」の説明の問題

ほとんどの初級教科書では、*levantarse, llamarse, lavarse* などを「再帰動詞」というカテゴリーにおさめている。し

かし、やや古いところでは、Diccionario Salamanca では「再帰動詞」という項目を設けていないし、『新文法』においても、「再帰代名詞」はあるが「再帰動詞」というカテゴリーを、少なくとも従来の方法では設けていない。カテゴリーがあるのは、atreverse, quejarse などであり、「代名動詞(verbos pronominales)」と名づけられている。初級文法の教科書では、「再帰動詞」というタイトルのもとに、levantarse, lavarse などから、mirarse のようにたまたま自分が行為の対象になっている場合や、拡張的用法として”se 受け身”や無人称の se の用法まで網羅されることも少なくない。しかし、これらには 1 人称、2 人称の用法がない以上、拡張的であるとするには根拠に欠けるのではないだろうか。『新文法』における再帰表現の扱いには、今後も注意する必要がある。また、TADESKA で『新文法』の講読をしている主要な理由の 1 つは、我々が慣れ親しんで自明視してきた日本人向けの初級文法の記述の見直しである。再帰についてはおおいに見直しが必要であろう。

9 定義不明瞭、例文 se 抜けている

相互用法の定義に必要な、ある人がその人自身ではなく、2 つの主体（人であることが多い）が互いに相手に対して行為をする、影響を与えるというような記述が欠けている。もしくは不明確（のように思える）。また、例文 *Nunca hablaban el uno del otro* に 再帰代名詞の se が欠けている。

10 prestigio の日本語訳？「社会的評価？」

社会言語学的にみた prestigio の問題は、TADESKA メンバーの Analía Vitale さんの研究テーマでもある。ところが、これに相当する日本語が容易にみつからない。ここでは「社会的評価」としたが、もっと調べてみる必要があるだろう。

最後に、今このまとめを書いていて気づいたが、本節の説明で、欠落している内容がある。それは、人称代名詞の 3 人称が、人ではなく事物を指示することができるかどうかは、格次第であるということである。主格 él, ella, ellos, ellas は、事物を指示しないが、対格は指示するし、与格も実際には少ないが指示することはできる。おそらく前置格も指示することができる。今回、この点をしっかり調べていなかったが、初級文法で、動詞の活用と主格人称代名詞を表にして一度に教える場合、人称代名詞の主格 3 人称が具体的な事物を指示しないという説明はほとんど見られない。英語だと it や they が事物を指示するが、それに相当するスペイン語は、抽象的な内容を示す ello しかない。また、このような空隙があることから、人称代名詞そのものを動詞の人称や数に直結されるような教え方には疑問を感じる。

以上、最後まで読んでいただいた方、ありがとうございました。お気づきの点をご教示ください。